NIE実践報告

1．タイトル：☆人権と共生社会

2．学校名

長野県伊那市立長谷中学校

3．実践者名（代表者名）

木下　正彦

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　13人

6．単元（本時の学習課題）名

「人権と共生社会」

7．目標（狙い）

現存する様々な人権課題を、その原因や経緯、解消に向けての経過等を新聞記事からも調査してきた生徒が、人権課題の未来の状況を話し合うことで、その不当性を共感的に理解できる。

8．評価の視点

(1)どんな記事に対して、どんな理由・気持ちから注目したか、その立場が明確か(発表、表現から)
(2)自分なりの問題・課題意識が持てたか(質疑応答、ワークシートから)

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第3学年社会科公民的分野「人権と共生社会」9時間扱い

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)12の人権課題から、関心のあるものを1つ選択し、追究の見通しを立てる。
(2)資料(新聞記事等)や関連情報を収集する。
(3)グループ発表を通して、将来それらの人権課題の状況がどのようになるか話し合いながら考える。
(4)自由権・社会権・基本的人権を守るための権利・新しい人権・国際社会における人権へと学習を進める。
〈留意点〉
・新聞スクラップ作品制作を通じて、活用力や表現力を高められるよう、お互いの作品を見合ったり批評できるように日頃より取り組む。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・人権学習については社会科以外でも扱ってきたが、新聞記事には多くの事案があることを再確認し、追究意欲が高まった。
・グループの記事紹介や説明を受けて、全体での話し合いの話題がより広がったり深まっていった。

12．成果と課題

・ともすれば暗く重くなりがちな人権学習であるが、その課題解消のために努力している事案等を新聞記事から探しだし、将来への見通しや自らの行動目標が明確になっていった。
・社会科を中心とする学習活動になってしまったが、他教科や道徳・特別活動・総合的な学習の時間などの領域、さらには各種の掲示物や通信等の広報活動でも新聞記事は有用であるので、利用の幅をより広げていきたい。